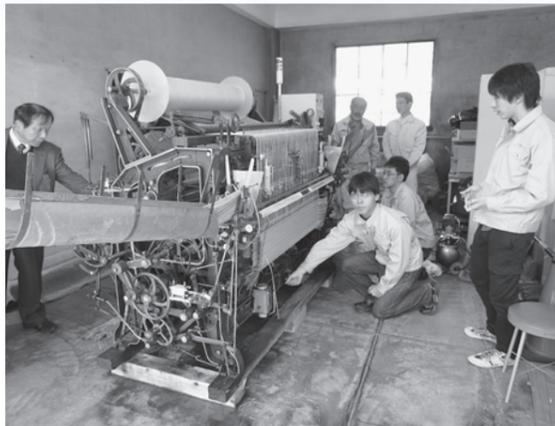


七島イの全自動織機改良事業終わる
国東市と大分県が大分高専に要請

七島イの畳表の生産性向上に向けての課題となっていた「全自動織機」の改良が完成し、3月17日に大分工業高等専門学校(古川明徳校長・大分市)で、「くにさき七島蘭振興会」事務局の細田利彦さん、七島イ生産者の松原正さんや淵野聡さん、県や市職員、学校関係者が出席し、織機の引渡式が行われました。

織機の改良は、平成24年10月に国東市と大分高専が包括連携協定を締結した際、市から依頼しました。国東市と大分県が「くにさき七島蘭振興会」に対して500万円の全額補助事業として行ったもので、当事業の完成により畳表の製品化に係る作業の効率化による生産性の向上が図られ、七島イの栽培面積の拡大につながるものと大いに期待されます。



▲大分高専で改良された七島イ全自動織機

【問合せ先】 秘書課 ☎0978-72-1111 (内線 204)

市長日記

若き農業者の挑戦
 第1回くにさき旬菜・春野菜の夕べ

なかなかの意欲的挑戦的な企画ですね。安岐町の若手農家グループ「くにさき農育ファミリー」の皆さんが、初めて主催して「くにさき旬菜・春野菜の夕べ」を開くと宣言です。私はこう言う挑戦的な企画が大好きです。彼らは、自分たちが作った自慢の野菜などの農産物を地元のシェフに料理してもらい、参加のお客様に自ら給仕して説明をするという試みなのです。また、自分たちの作った農産物などがどのように料理され、どのように食べられ、評価されるのを見てみたいとのことでした。私もプライベートで参加を申し込みました。

5月17日(土)、開会の午後6時前に会場の市内のレストランに行きました。レストラン前の中庭では、早くもスナップエンドウ、筍(破竹)、手作り豆腐、豆乳、オカラ等売っていました。説明や意見を聞くため今回の参加者は国東市内外からの20名に限定。料理は12種類「世界農業遺産の里」国東で採れる野菜や果物そして原木乾し椎茸など野菜中心のヘルシーな料理です。

国東市長 三河明史



5月19日

まず、乾杯の野菜ジュースは、ハッサク、いちご、にんじん、カボスで、カボスのもつシャープな味が引き立ちます。ネギサラダはネギドレッシングでいただきます。干しシイタケのカナッペは、椎茸嫌い子どもでも好きになるかも。自家製豆腐は、若手農家の一人が作った大豆を使って作った豆腐です。少し硬めの醤油などかけなくても十分な甘みを感じる豆腐です。天ぷらは、筍、スナップエンドウ、ツワブキ。スナップエンドウのクリームコロッケ。にぎりずしのネタは、魚ではなく野菜です。芽ネギや椎茸の軍艦、スナップエンドウ、筍などの握り。締めくくりにデザートは、カボスシャーベットとオカラのドーナツ。材料は肉も魚もなく、野菜と果物ばかりでしたが、どれも食材の味が生き生きとおりとても美味しく満腹になりました。

今回の企画で、生産者たちは自分たちの農産物に十分自信を持ったでしょう。参加者はほとんどが市内と近隣の人で、内容が意欲的だけでなく少し都市部の人に参加してほしいと思います。いずれにしても、彼らのような若手農業者がいれば国東は大丈夫です。大いに希望が持てます。若い人たちに励まされました。9月に開催予定の「夏野菜の夕べ」に期待しましょう。



人権シリーズ vol.97

人権感覚のなさからか?

頻繁に発生する人権侵害の事実

新聞で『差別』の見出しが多く見受けられ、心を痛めている方、憤慨されている方も多いのではないだろうか。ご存知の方も多いと思いますが、最近の「差別事象」の事例を紹介します。

【事例 1】

人種差別問題が、たびたび起きるサッカー界でのできごとですが、3月中旬の新聞一面に大きく「無観客処分」と掲載されました。あるサッカーチームのサポーターが、試合中に「JAPANESE ONLY」という差別的な内容の横断幕を掲げたことに対して、チームに科せられた処分でした。この問題は、4月の下旬から始まったA新聞の「排除の理由」にも掲載されていますが、この差別的な行為は、今回表面化した場所以外でも多くあるらしいのです。

【事例 2】

昨年の10月、京都地裁は、ある団体が朝鮮学校前で行われた街宣活動について、ヘイトスピーチにあたると違法性を認定し損害賠償の支払いを命じました。その判決は、社会の中の少数者を、動物や虫けらとあざけたり、「たたき出せ」などと連呼する言動に対する判断です。

専門家によると、人は、人種や肌の色な

ど自分ではどうしようもない差別、侮辱を受けると、殴られるのと同じ痛みを感じ、反論の気力を失うらしいのです。

一方、最近同じような差別事象で、「サッカーの試合中、某黒人選手がコーナーキックをしようとしていたまさにその時、観客からバナナが投げ込まれて人種差別行為を受けました。その時、その黒人選手が『そのバナナを拾い、皮をむいて食べてから、コーナーキックを行った。』という人種差別行為に対抗する姿勢を示し、世界中に人種差別反対の《バナナの輪》の動きが広がっています。

【事例 3】

「遍路」(平安時代の空海ゆかりの四国八十八ヶ所霊場を歩き礼拝すること)から外国人を排除しようとする差別的な張り紙が発見されました。

このような一連の「差別事象」は、格差社会といわれる現代、人間関係がギスギスして、周り(他人)のことなどに気配りがないことから発生するのでしょうか。今一度、「差別」の怖さを考えてみましょう! 皆さん一緒に!!

(文責 安岐分室 本多)

※1 「JAPANESE ONLY」とは「日本人以外はお断り」とも読み取れる外国人を排除しようとする差別的な表現
 ※2 「ヘイトスピーチ」とは、対象に対して嫌悪や憎しみを込め、それが込められていると分かる内容の発言や主張のこと

ご利用ください

全国一斉「子どもの人権110番」相談強化週間

【日 時】 6月23日(月)～6月29日(日)
 平日 午前8時30分～午後7時
 土・日 午前10時～午後5時

【電話番号】 ☎0120-007-110
 (全国共通/大分地方務局)

【相談内容】 学校におけるいじめ、体罰、児童虐待など子どもに関する人権問題

【担当者】 人権擁護委員、法務局職員

【問合せ先】 大分地方務局人権擁護課 ☎097-532-3368

第7回国東市隣保館まつり
 「こころの川柳」応募作品

☆語ろうよ
 あきらめないで親子だよ
 国東町 重光 アツ子

☆盆休み孫と詣でる祖母の墓
 武蔵町 室利 則